

第1章

「世界一の都市・東京」を目指して

東京都長期 ビジョンの構成

目指すべき 将来像
「世界一の都市 ・ 東京」の実現

将来像の実現に向けた 2つの「基本目標」

基本目標Ⅰ：史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

- *2020年の東京の姿、レガシーの継承
- *オリンピック・パラリンピック開催を起爆剤とした都市の発展

基本目標Ⅱ：課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現

- *少子高齢・人口減少社会への対応をはじめ、山積する課題を解決

《基本目標Ⅰ》

「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」

1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

政策指針：1～4

2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

政策指針：5～6

3 日本人のこころと東京の魅力の発信

政策指針：7～8

《基本目標Ⅱ》

「課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」

4 安全・安心な都市の実現

政策指針：9～10

5 福祉先進都市の実現

政策指針：11～14

6 世界をリードするグローバル都市の実現

政策指針：15～19

7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

政策指針：20～23

8 多摩・島しょの振興

政策指針：24～25

政策全体に共通する5つの視点

経済の活性化と生活の質の向上

先端技術の積極的な活用

ハードとソフトの融合

女性の活躍、高齢者の社会参加

官民の政策連携と規制緩和

政策の方向性を示す
8つの「都市戦略」

基本目標Ⅰ

史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

都市戦略1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

(政策指針1) 2020年大会の成功に向けた万全な開催準備とレガシーの継承

(政策指針2) 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築

(政策指針3) 多言語対応の推進により、全ての外国人が快適かつ安心して滞在できる都市の実現

(政策指針4) 世界に存在感を示すトップアスリートの育成とスポーツ都市東京の実現

都市戦略2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

(政策指針5) 陸・海・空の広域的な交通・物流ネットワークの形成

(政策指針6) 誰もが円滑かつ快適に利用できる総合的な交通体系の構築

都市戦略3 日本人のこころと東京の魅力の発信

(政策指針7) 「おもてなしの心」で世界中から訪れる人々を歓迎する都市の実現

(政策指針8) 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

基本目標Ⅱ

課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現

都市戦略4 安全・安心な都市の実現

(政策指針9) 災害への備えにより被害を最小化する高度な防災都市の実現

(政策指針10) 日常に潜む危険や犯罪から都民を守る、安全・安心の確保

都市戦略5 福祉先進都市の実現

(政策指針11) 安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちの実現

(政策指針12) 高齢者が地域で安心して暮らせる社会の実現

(政策指針13) 質の高い医療が受けられ、生涯にわたり健康に暮らせる環境の実現

(政策指針14) 障害者が地域で安心して暮らせる社会の構築

都市戦略6 世界をリードするグローバル都市の実現

(政策指針15) 日本の成長を支える国際経済都市の創造

(政策指針16) 都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上

(政策指針17) 若者や女性、高齢者など全ての人が活躍できる社会の実現

(政策指針18) 東京、そして日本を支える人材の育成

(政策指針19) 2020年大会の成功と東京の発展に寄与する都市外交の推進

都市戦略7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

(政策指針20) スマートエネルギー都市の創造

(政策指針21) 水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現

(政策指針22) 都市インフラの安全性を高め、安心できる社会の確立

(政策指針23) 少子高齢・人口減少社会におけるこれからの都市構造

都市戦略8 多摩・島しょの振興

(政策指針24) 多摩・島しょ地域の発展・成熟したまちづくりに向けた環境整備の推進

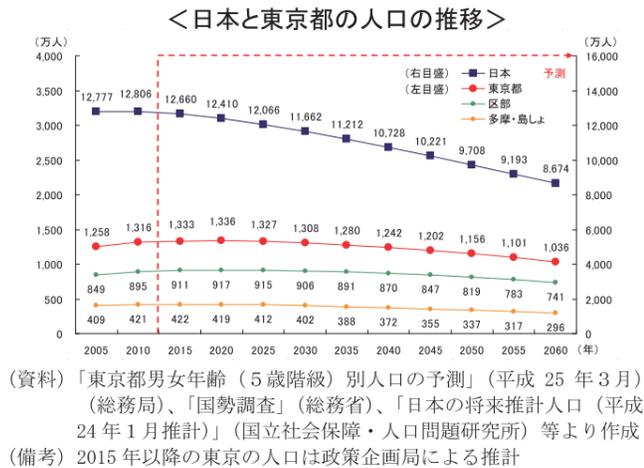
(政策指針25) 多摩・島しょの豊かな自然を生かした地域の活性化

東京の人口の推計

人口フレームは、長期の政策を展望する上で不可欠の要素である。日本の人口はすでに減少に転じているが、これまで人口が増加傾向で推移してきた東京においても、人口減少が懸念されている。そこで、2060年までの東京の人口の推移を推計した。

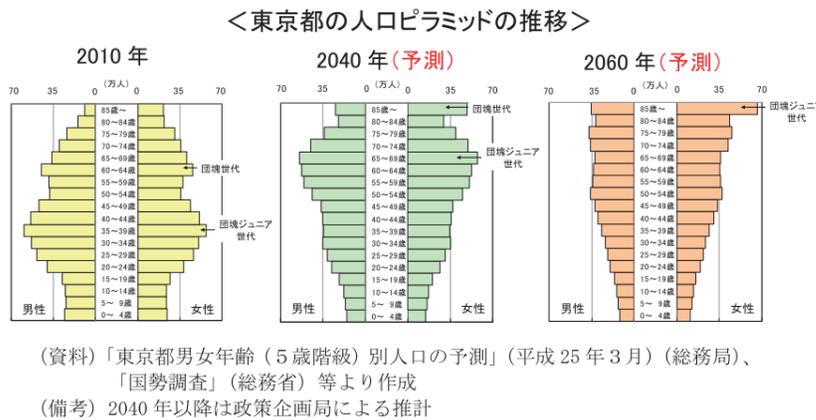
東京の人口は約2割減少

- 東京の人口は、今後しばらくは増加を続けるものの、2020年の1,336万人をピークに減少に転じ、2060年には、1,036万人になり、2010年に比べ約2割減少することが見込まれる。
- 地域別にみると、区部は2020年、多摩・島しょ地域は区部より若干早く2015年に、人口のピークを迎える。



東京の人口ピラミッドは“つぼ型”に

- 東京の人口ピラミッドの形状は、団塊ジュニア世代が全て65歳を超える2040年には老年人口(65歳以上人口)が一層膨らむ形状になり、2060年には、年少人口(15歳未満人口)の割合が低く、老年人口の割合が高い“つぼ型”に変化していく。



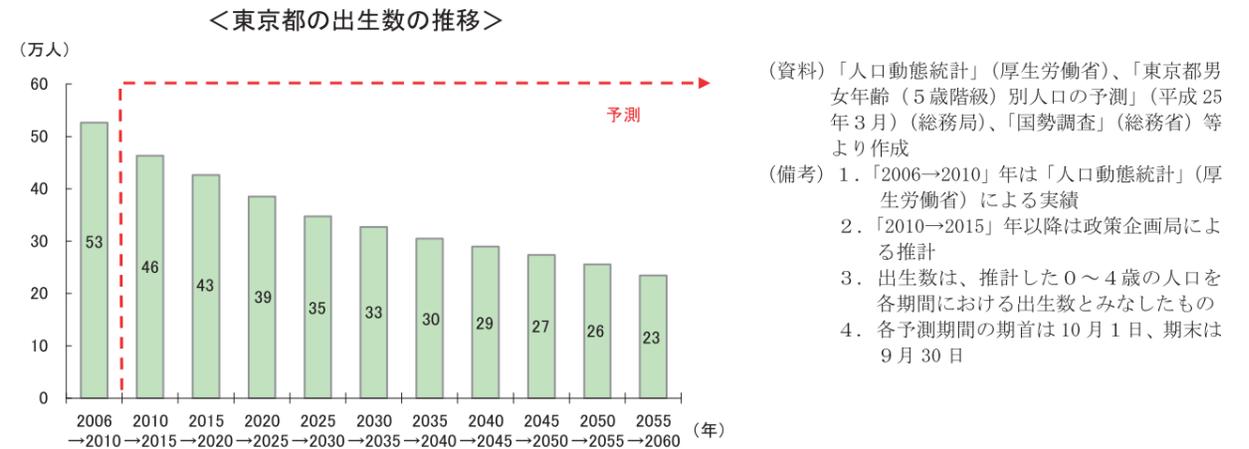
現役世代1.4人で1人の高齢者を支える時代に



- 2010年には現役世代(生産年齢人口)3.3人で1人の高齢者(65歳以上)を支えていることになるが、少子高齢化の進行により、2060年には1.4人で1人の高齢者を支えることになる。

出生数が半分以下に

- 2006年から2010年の5年間の出生数の合計は約53万人であるが、少子化の進行により、2055年から2060年の5年間に於ける出生数の合計は約23万人まで減少すると見込まれる。2015年以降は15～49歳の女性の人口の減少が、出生数の減少に大きな影響を与えらる。



自然減の拡大と社会増の縮小により人口が減少

- 東京の自然増減は今後、高齢化に伴い高齢者の死亡数の増加が見込まれることから、自然減の一層の拡大が見込まれる。
- 東京の社会増減は、今後も転入者数が転出者数を上回る状態(社会増)が続くものの、全国的な人口減少の影響により、社会増の縮小が見込まれる。

